



せん状地は、どのようにしてできるの

川の水のはたらき

川の水のはたらきには、3つのはたらきがあります。川岸や川底の土や岩をけずるはたらき（しん食作用）、けずったものを下流へ運ぶはたらき（運ぱん作用）、運んできたものを川底に積もらせるはたらき（たい積作用）があります。

川の水の、積もらせるはたらきでできる

川が山地を流れているときは、川底のかたむきが大きいので、川の流れる速く、川岸や川底をけずりながら流れ、けずりとったものを運んでいきます。

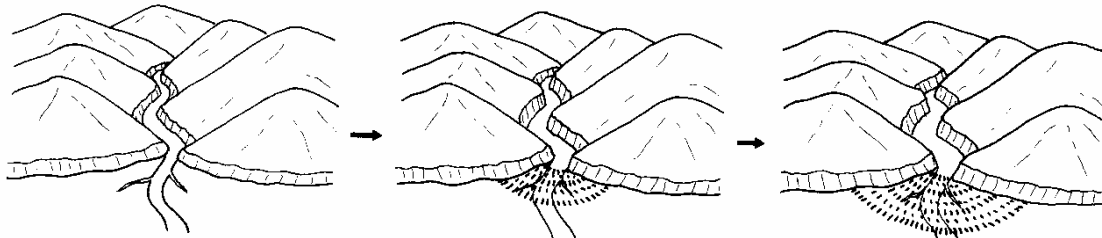
ところが、川が山地から平野に流れ出す所にくると、急に川底のかたむきが、小さくなるので、流れがゆるやかになり、川底に土や砂、小石などを積もらせます。

川底に土や砂、小石などが積もると、川の流れるがさまたげられるので、川は別のほうへ流れを変えていきます。

このようなことが何度もくり返されると、山地と平野の境目あたりから、何本もの流れができて、運ばれてきた土や砂、小石などが積もり、全体として、「おうぎ」を広げた形の平野ができます。これを「せん状地」といいます。

せん状地は、川の積もらせるはたらき（たい積作用）でできた平野です。甲府盆地にできた笛吹川や、釜無川のせん状地は有名です。（監修・国司 真）

せん状地のでき方



川が山地から平野に流れ出る所に、土や砂、小石がたまりはじめる。

川は山地からの出口付近に、少しずつ土や砂、小石をためる。

運ばれてきた土や砂、小石は、さらに大きくおうぎ形に広がる。

